

平成29年度桜門体育学会大会報告

大会報告

日本大学 商学部 准教授 佐藤 佑介

平成29年度桜門体育学会大会(第8回大会)は、平成30年1月21日(日)に開催された。会場は、日本大学商学部であった。これまで日本大学文理学部で開催されてきた本学会大会を、他学部で開催するという新しい試みである。

本大会は、オープニングセッション(プロジェクト研究発表等)、一般発表(ポスター)、一般発表(口頭)、特別講演、トークセッション、総会、懇親会という流れで行われた。

オープニングセッションは3号館講堂で行われた。大橋二郎先生(大東文化大学、桜門体育学会会長)による開会のあいさつに続き、プロジェクト研究発表が行われた。本学会がプロジェクト研究として取り組んでいる「大学生の社会的スキルに及ぼすスポーツ活動の効果」について、磯貝浩久先生(九州工業大学)を中心に、その成果が発表された。本研究は科学研究費(基盤研究(C)16K01664)の研究助成により行われているものである。

一般発表(ポスター)は、2号館1階マロニエにて開催された。演題数は22題であった。1時間30分の時間が用意された一般発表(ポスター)では、各発表に割り当てられた演題番号に応じて、在籍責任時間(50分間)が指定された。在籍責任時間を含め、発表者は学会参加者とディスカッションを行った。ポスターサイズがA1に設定されたため、ポスターの視認性等が懸念されたものの、心配していたようなネガティブな影響もなく、円滑に発表が進んでいる様子であった。

一般発表(口頭)は、2号館の3会場(2201教室、2202教室、2203教室)にて開催された。演題数は11題であった。各会場の座長は、野崎真代先生(日本大学工学部)、近藤克之先生(日本大学スポーツ科学部)、伊藤英之先生(國學院大學人間開発学部)であった。各発表は20分(発表15分、質疑応答5分)の時間が割

り当てられた。口頭発表というポスター発表とは異なる雰囲気の中、座長の進行のもと、発表者と学会参加者の活発な意見交換が行われた。

特別講演は、3号館講堂において行われた。講師は、遠藤幸一先生(日本大学商学部、東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会スポーツマネージャー(体操))と高橋義雄先生(筑波大学)であった。2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピック競技大会の現状や、大学スポーツの在り方に関する最新情報に触れることのできる貴重な機会であった。その後、水上博司先生(日本大学文理学部)の司会のもと、両講師によるトークセッションが展開された。

特別講演の内容については、他稿において詳細に記されている。この資料は、今後の日本大学におけるスポーツを考えるうえで、とても有益な情報を提供してくれるだろう。

総会では、例年通りに学会運営に関する報告や審議が行われた。その中では、大会賞も発表された。この賞は、一般発表のうち、特に優秀な発表であった3題に与えられるものである。その後開催された懇親会を経て、本大会は閉会した。

本大会は多くの皆様の支援により、開催することができました。これまでの大会プログラムを踏襲できた部分もあれば、会場等の関係で、これまで通りの内容を実現できない部分もありました。そのような中において、自由度をもった大会準備、運営を許していただき、大きなご支援をいただいた桜門体育学会理事と大会実行委員の皆様、講師や座長をはじめ、本大会に携わってくださったすべての皆様、大会運営を支えてくれた商学部学生、そして、すべてのプロセスにおいて多大なサポートをいただいた日本大学商学部の深見将志先生に、この場を借りて心よりお礼申し上げます。